

平成20年度 一般会計 予算見積 事業別概要書(当初)

款	7.土木費	事業名	4.3・4.16太田・高岡線道路改良費					
項	3.都市計画費	細事業名						
目	3.街路事業費	担当課・係	道路建設課		(執行課: 道路建設課)			

予算分析	臨時経費	継続事業	単独事業								(単位:千円)	
	(歳入)	(歳出)	財源内訳	国庫支出金								一般財源
要求額	13,750	92,960	要 求	13,750								79,210
決定額			決 定									

実施計画の内容	(実施計画における事業の概要)	施 策	多彩なふれあいが広がるまちづくり/生活基盤が充実したまちづくり/市内の南北を縦断する太田・高岡線の整備を進							
	【太田・高岡線の整備に関する業務】	施策体系コード	05-02-01-10-60			事業番号	172-1			
	太田高岡線(石川～藤治台)の整備に関する国庫補助金事務関係・	総事業費	590,670千円				事業期間	平成18年度～平成22年度		
	用地買収関係・工事関係	年度別事業費	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度			
			90,400	193,570	166,900	139,800	0			
		(事業実施に関する根拠法令) 都市計画法第59条								

< 事業に関する説明 >

(事業の説明) 認可延長1,094mで、平成11年度より用地買収に着手し用地買収率は86%、328mの整備、及び取り付け道路の176mの整備が完了している。 平成20年度は引き続き用地交渉(買収)を実施するとともに、工事箇所の埋蔵文化財調査、整備済み箇所の道路台帳の作成、本線及び本線取り付け部分の道路整備を実施する。	(事業の目的) 本道路の周辺地区は工業団地、住宅地、郊外型商業施設、市街化区域内低未利用地、既存住宅団地が混在しているため、交通導線が輻湊し、主要道路である県道佐倉印西線等の交通渋滞をまねいている。 当道路整備により、これらの課題対応、また周辺の生活道路への通過車両削減を図る。	(事業の効果) 県道佐倉印西線をはじめとする周辺道路の交通渋滞の緩和、周辺団地からJR総武本線佐倉駅、物井駅への通勤通学アクセスの向上、さらに周辺の生活道路の通過交通量の削減など、様々な効果が見込まれる。
(事業実施上の問題点) 本路線は、JR総武線本線物井駅と国道296号バイパスを結ぶ幹線道路であるが、国道との道路ネットワークを考えた場合、現在の藤治台団地までの整備に加え、今後は国道296号バイパス(高岡地先)までの整備計画を検討する必要性がある。 一方、整備用地における地権者の協力が得られない箇所があり、事業の進捗に影響が出ている。	(前年度からの見直し点) 一部用地交渉が難航している状況の中で、取得済み箇所を最大限に活用した部分整備など、早期に効果が出るように再検討を行なう。	(見積についての特記事項) 効率的な施工方法を検討し、最小の経費で最大の効果が得られるように努める。